

○ ジュウシチホシハナムグリ坂の谷に産す

ジュウシチホシハナムグリ *Paratrichius septemdecimguttatus* は従来兵庫県下からの記録は美方郡扇ノ山広留野の1♀(21-VII-1959)があるだけだった〔湯浅, 1960, 辻, 岸田, 1972〕。1980年7月22日, 小倉 滋氏は坂の谷に採集に行かれてノリウツギに来ていた本種4♂, 2♀を採集されたので記録しておきたい。いずれも黒色型ばかりで赤褐色型はいなかったとのこと。このあたりにいることは大変うれしい。或は音水・赤西溪谷あたりにもいるかもしれない調べて見る必要がありそうである。同時に坂の谷でオオチャイロハナムグリの1♀を杉の空洞内より採集された(26-VII-1980), 本種もこのあたりに割合いるようで奥谷博士も採集しておられるようだし, 1979年7月22日小倉 滋, 三木 進両氏と坂の谷に採集に出掛けた時も小倉氏がブナの樹上を歩行中の1頭を採集しておられる。坂の谷は氷の山の南側面にあたる所で可成り開発が実施されている地点である。

記録の発表を赦された小倉 滋氏に厚く御礼申し上げる。また同氏から次の記録も頂いているのでここに合せて報告させて頂く。

● ルリヒラタムシ *Cucujus mnischechii*

宍粟郡赤西, 1ex., 22-VII-1979, 小倉 滋氏採集。本種は城崎郡三川山, 美方郡扇ノ山, ハチ北高原が県下から記録されていて赤西からは初めてである。既に赤西ではベニヒラタムシも採集されているし(1ex., 23-VI-1979, S.Miki leg.), エゾベニヒラタムシが扇ノ山で記録されている〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972〕。この属の美しいもの3種がこのあたり一帯にいるようである。

● ネプトクワガタ *Aegus laevicollis subnitidus*, 三木市朝日丘, 1♂, 16-VI-1980, 小倉 滋氏採集。本種は特に珍しいと言えないかも知れないが県の中央部地域での記録は従来ほとんど無かった。従って本種が案外県下に広く分布している種のように思われる。

尚波賀町の三室山から鳥取県に向かって流れる加地川流域にはクロカタビロオサムシが大変多く冬季積雪時に苔下などで越冬しており, それからや西の方にある東山との間にある吉川の地域にはアカマダラセンチコガネが多いと。さらに沖ノ山の北西, 芦津~北股川, 八河谷~綾木谷川流域にはアオアシナガハナムグリが極めて普通に生息していると言う記録がある(恩藤, 江原, 1974)。共に宍粟郡の隣接地であり同郡下に記録の無い種である(兵庫県下でも記録は少い)。千種川上流地域は赤西, 音水溪谷と同様に調査しなくてはいけない地域のようなものである。

○ 神戸市内に珍しいタマムシが

1980年11月8日山手短大の田中 梓教授と四方山話をしていると同教授が神戸三中時代(現兵庫県立長田高校)高取山で採集されたタマムシが当時出版された"日本の昆虫,第3巻,第2号"にカラーの図版をつけて三輪勇四郎・中条道夫両博士著"本邦産タマムシ科の新種及稀種図説"の論文が発表されその9図に出ているタイワンフタオタマムシであったと。其の後同教授は台北大学に学ばれその標本も持参三輪勇四郎博士にお見せしたら是非何かに記録しておく様にと言われてそのままになっていると言うお話だった。標本は勿論台湾に残されたまま帰国されている。標本が見られないのでそれが真のタイワンフタオタマムシであったのかどうか確かめることが出来ないが或は同属のトゲフタオタマムシであったのかも知れない。この種にしても兵庫県下から記録は無い。採集は昭和12-3年頃(1937-1938)とのことであるから現在の高取山とは全く違った自然状態であった事は確で今探しに行っているかどうか疑問であるが全くのぞみがないわけではない。三田学園高校々庭では近緑のヤノコモンタマムシが採集されている(きべりはむし,7巻,2号,1979)。珍しいタマムシが身近にひっそりと棲息しているような気がする。また1つ夢が出て来たことになる。

○ 訂 正

小林桂助氏が1932年関西昆虫学会々報(3号:73-79)上に発表になられた"大阪附近の天牛"と題する報文は多くの六甲山でのカミキリムシの記録がふくまれていて大変重要な報文である。その中の74. *Paraglenea fortunei* Saunders カツラカミキリ 採集地,六甲と言うのは学名と状況からしてラミーカミキリのことではないかと考え若しラミーカミキリであれば兵庫県下から一番古い記録になるので小林桂助氏に御願ひして記録に用いられた標本を検査する機会を御願ひした所心よく赦されたので御一諸に検査させて頂いたが残念ながらカツラカミキリとラベルのついたカミキリは5匹ありいづれも真のカツラカミキリ即ちチチブニセリンゴカミキリ *Nipponostenostola niponensis* (Pic) であった。採集ラベルがついていなく、小林氏は六甲山で採集したものではない、何か感違いだっただ様だとのことであった。したがってこの記録は取消しておいた方が良く考えられる(松村松年博士の図説にはカツラカミキリの学名に *Paraglenea fortunei* を使用しておられる,1931)。関 公一氏も"御影町附近産の甲虫目録(其の二)"(昆虫界,1巻,4号,1933)の中で小林氏の記録をそのまま引用しておられ其の後此の種に就いて疑問があるむね記しておられる(昆虫世界,39巻,452号,1935),当時それを確かめられないままに現在にいたっていたわけである,また関 公一氏が"兵庫県産の天牛科甲虫"(昆虫界,9巻,89号,1941)の中で97. *Stenostola konoii* Kano

コウノセリンゴカミキリ 採集地一六甲(小林桂助)と記録された種も小林氏の標本中に見出すことが出来なかった。この記録も何かの間違いで取消しておいた方が良いでしょう(或は前記種のことを意味しているのかもしれない)。以上やっかいな筆者のお願いに気持ちよく古い標本の閲覧を赦された小林桂助氏の御好意に厚く御礼を申しあげたい。

さてラミーカミキリの方は神戸市内では普通種としてこの頃余り話題にもものぼらない。県下の新しい産地の報告もほとんどないようであるが仲田元亮氏は次の産地を御教示下さった。此処に記録しておき度い。

川辺郡猪名川町木津上(1 ex., 8-VII-1979, 仲田元亮氏採集)。尚兵庫県下ではないが大阪府豊能郡能勢町柏原で3 exs. 採集され(4-VII-1980), 多数発生していたとのことである。筆者自身は1980年8月1日飾磨郡夢前町我孫子(雪彦山の東の谷)に1979年に続いて2度目の訪問で本種がこの谷ぞいに多くいるのに遭遇した。

県 関 係 文 献 紹 介

- 登日邦明・三熊山の自然の価値を考える。

季刊 淡路の文化 第2巻, 第1号(昭和55年春号), P. 33-36.

一般の眼につきにくい雑誌のように思うが一。勿論表題のごとく昆虫関係の雑誌ではない。

三熊山の昆虫相についての僅かの記録がある。

- 神戸図書ガイド 1980年10月刊, 83P.

神戸の書店3店で共同出版した神戸に関する図書目録である。自然関係の本が案外少い。また機関誌・同好会誌的なものゝ収録がゼロなので吾々の利用価値は余りない。たゞ不思議なことに松浦役児・吉阪道雄著, 御影町附近産蝶類目録, 1951, 6P. とするのが1点出ている, 説明も何もない。これは“採集と観察”(30): 60-65, 1951の中での別刷だと考えるのであるが妙なものが入っているものである。どういう経緯で収録されたのかよくわからないがこの種のものを収録して貰えるのであればもっと他に重要な収録してほしい文献は多々あると思われる。

- “てんとうむし” 第6号, 1980年12月刊, 37P. (姫路昆虫同好会機関誌)。

なかなか立派な会誌である。内容は蝶の記事が多いが顔振れも多彩で楽しく有益に見られる。